

## 新帰化植物アメリカトゲミギク (新称)

### 神奈川県宮ヶ瀬に産す

小 原 敬

A new naturalized plant *Acanthospermum hispidum* DC. from  
Miyagase, Kanagawa Prefecture, Japan

Takashi OBARA

茅ヶ崎植物会の観察会が一昨年(1982)9月23日、水源池建設のため近く水没する神奈川宮ヶ瀬付近で、内田藤吉先生の御指導により催された。

その折り、会員の齋木操さんが路傍で今まで見掛けたことのないキク科植物を採集された。

わが国のどの植物図鑑にも見当たらないし、誰方にお尋ねしても解らないとのことであった。

それで、その一枝を持参していただき、試みに手許の中国高等植物図鑑・第四冊(1975)のキク科のところを齋木さんと調べてみた。

その結果、この植物は同図鑑498頁、6391図の *Acanthospermum australe* (L.) O. KUNTZE に酷似していることが判明した。ただしこの(L.)は(LOEFL.)の間違いである。また中国植物志・第75冊のキク科の部にもこの図鑑とほとんど同じ図があり、やはり同じ学名を当てている。

一方この *Acanthospermum australe* (LOEFL.) O. KUNTZE は BRITTON and BROWN の An Illustrated Flora of the Northern United States and Canada, 3. p. 459, (1970) にも収載されている。この植物は茎が匍匐し、葉が小形で、葉幅が広く、鋸歯が深く、無毛で、花梗があり、包果の先端に2本の直生する刺が生じない点等が中国高等植物図鑑の図や宮ヶ瀬産標本と異なっている。

筆者は Flora Kanagawa. No. 14 (1983) に「帰化植物のニューフェース・アメリカトゲミギク宮ヶ瀬に産す」と題し予報を発表しておいた。この予報では一応 *Acanthospermum australe* (LOEFL.) O. KUNTZE に当て、アメリカトゲミギクという仮名を与えてお

た。

上記の両文献に見られる本種の記載の相違は何か引っかけものがあった。神奈川県立博物館の大場達之先生はそれは種を異にする程度の差であると考えられ、同館の高橋秀男先生に調査を依頼された。高橋先生は国立科学博物館の標本と比較検討され、宮ヶ瀬産のものはインドで採集された *Acanthospermum hispidum* DC. に一致することを突き止められた。この植物の原産地は南アメリカで、インドのは帰化したものである。米国ではフロリダ、ジョージア、アラバマの海岸平野に生育し、熱帯アメリカにも分布している。中国高等植物図鑑や中国植物志に収載のものもやはり *A. hispidum* DC. に当てるべきものであろう。

中国では雲南省の各地に帰化しているといい、その生育地は平開地、河辺、溝の近辺で、大場先生によればアメリカセンダングサと習性が似ているとのことである。

雲南省の省都昆明は1908年天津条約により開市し、昆河鉄道でハノイに通じ、またビルマに通じる道路もあり、交通の要衝で、インドから仏印を経て援将ルートのあった所でもあるので、雲南省のものは恐らく米国またはインドから渡来したものであろう。宮ヶ瀬のものも多分米国経由でもたらされたものと思われる。

トゲミギク属 (*Acanthospermum*) はメナモミ族に (*Heliantheae*) 属している。一年生のやや粗雑な草本で、葉に軟細毛を生じ、茎は直立か匍匐、葉は対生、幅広く、しばしば革質、牙齒がある。放射状に、目立たない花が葉状の苞に腋生する。総苞は二層、外苞は

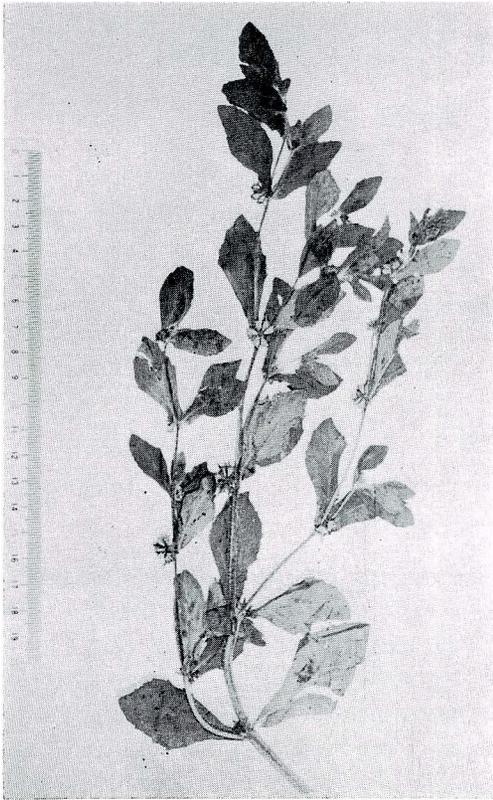


図1. 宮ヶ瀬産アメリカトゲミギク(*Acanthospermum hispidum*)の全形

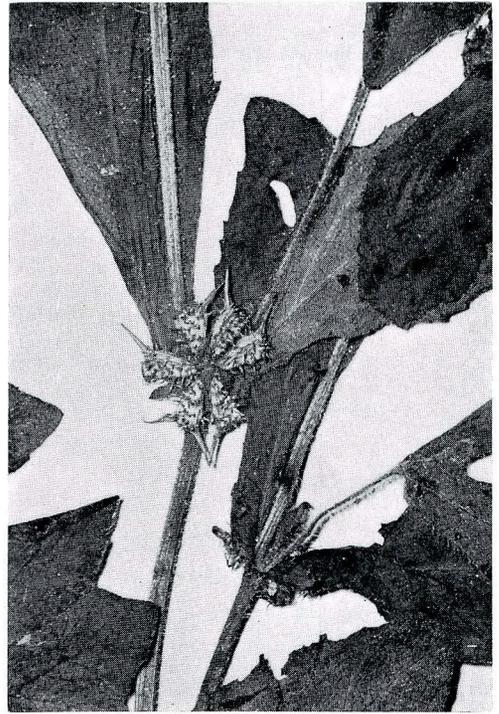


図2. 宮ヶ瀬産アメリカトゲミギクの部分

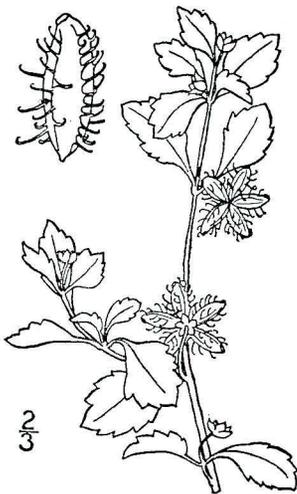


図3. BRITTON and BROWN の植物図誌に搭載されている本来の *A. australe* の図。苞果の頂端に角状の刺がなく、また頭花は有梗である。

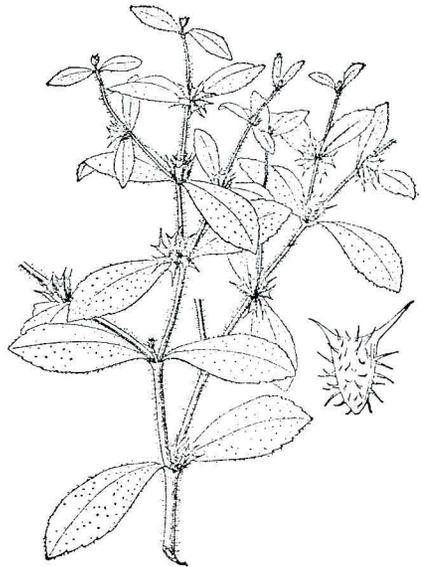


图 6391 (菊 科)

図4. 中国高等植物図鑑で *A. australe* としているものの図。宮ヶ瀬産の *A. hispidum* によく一致する。

平坦で草質、内苞は少し小さく、イガ状になり、成熟時瘦果を包み脱落する。花床は凹状か凸状。放射花は少なく1列。舌状花冠は小さく、黄色、真中より上部で最も幅広く、すこし曲がる。冠毛を欠く。

属名 *Acanthospermum* はギリシャ語の akanta (刺) + sperma(種子)。有刺のイガ様苞果に由来する。

この属は西インド諸島、南アメリカ、ガラパゴス、マダガスカルに分布し、8種あり、基本種はブラジルトゲミギク(新称) (*A. brasiliense* SCHRANK) である。

アメリカトゲミギク(新称) — *Acanthospermum hispidum* DC. 中国名: 刺苞果。

茎は直立、分枝し、粗雑な草本で高さ1mに達する。通常それより低い。葉は長さ3~6cm、卵状楕円形、真中より上部に浅い鋸歯あり、軟毛を密生し、無柄、基脚はくさび形。総苞は狭鐘形、2層あり、外層は5、草質、矩円状披針形、内層(outer phyllaries)は倒卵状矩円、基部は雌花を緊密に包み、頂端に角状直刺を生じ、周囲に少し曲がった短刺がある。舌状花冠は短かく、黄色。花床は長さ約1mm。瘦果は矩円形で圧扁されていて、内層苞片中に包まれている。

本報告の発表に当り、金井弘夫、大場達之、高橋秀男の諸先生の示された御好意に心から謝意を表します。

## 文献

- DE. CANDOLLE, A. P. 1836 Prodr. Syst. Nat. 5: 522. Parisiiis.
- BRITTON, N. L. and BROWN, H. A. 1970 An Illustrated Flora of the Northern United States and Canada 3: 459. fig. 4420 Dover Publications, Inc., New York.
- LONG, R. W. and LAKELA, O. 1971 A Flora of Tropical Florida 835—836. Banyan Books, Miami, Florida.
- WILLIS, J. C. 1973 A dictionary of the flowering plants and ferns. 8 ed. 7. Cambridge University Press.
- 中国科学院植物研究所主編 1975 中国高等植物図鑑 4 489, 図 6391. 科学出版社 北京.
- 中国科学院植物研究所主編 1979 中国高等植物科属 検索表 437—438. 科学出版社 北京.
- 中国科学院植物研究所編輯委員会 1979 中国植物志 75 332—333. 図版56. 図4. 科学出版社 北京.
- 小原 敬 1983 帰化植物のニューフェース・アメリカトゲミギク宮ヶ瀬に産す, フロラ・カナガワ 14 84.

(茅ヶ崎市 平和学園)